

在セネガル日本国大使館月報

2026年2月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 5日から8日にかけて、ファイ大統領はタンバクンダとケドゥグを視察。
- 6日から8日にかけて、ソンコ首相はギンギネオ県を視察。
- 18日の閣議で、「自然に反する行為(同性愛)」の罰則を厳しくする方針が閣議決定された。

(外政)

- 5日、ニャン外務大臣はダカール国際フォーラムのキックオフ会合を行った。
- 14日及び15日、ソンコ首相はエチオピアにて開催された第39回AU総会に出席。

(経済)

- 26日、中期債務管理及び2026年度国家財政計画の一環として2,000億FCFAの公募債を発行すると発表。

カーボベルデ

- 12日、国家選挙管理委員会は5月17日に予定されている議会選挙の選挙日程を承認、公表した。
- 14日及び15日、ネーヴェシュ大統領及びド・リブラメント・デ・ブリト外務大臣はエチオピアで開催された第39回AU総会に出席。

ガンビア

- 14日及び15日、ジャロウ副大統領、ニエ外務大臣、ジャロウ法務大臣はエチオピアで開催された第39回AU総会に出席。
- 18日、第61回独立記念日が祝われ、バロウ大統領が独立記念日に際する声明を発表した。

ギニアビサウ

- 2日、12月6日に再び議会選挙及び大統領選挙が実施されることが発表された。
- 13日、ペレイラ・ギニア・カーボベルデ独立アフリカ党(PAIGC)党首が、クーデター未遂事件に関連する手続きの一環として、証人として軍事検察庁の事情聴取を受けた。

セネガル

(出典は Le Soleil 紙、RFI、大統領府 HP、セネガル外務省 HP、Seneweb、Jeune Afrique。)

(内政)

内政一般

- 5日から8日にかけて、ファイ大統領はタンバクンダとケドゥグを視察。地方大学、鉄道駅、バナナ生産農業地域、空軍基地、道路建設現場を視察。
- 6日から8日にかけて、ソンコ首相はギンギネオ県を視察。地方分権を推進する法律改正案を議会に

提出する旨宣言。

- 18日の閣議で、「自然に反する行為(同性愛)」の罰則を厳しくする方針が閣議決定された。
- 27日、チャム元通信・電信・デジタル大臣は犯罪組織への関与、公金の横領、マネーロンダリングの「重大な証拠と推定」が明らかになり、起訴されることになった。

(外政)

二国間・多国間関係

- 2日から3日にかけて、ファイ大統領はコンゴ共和国とガボンを公式訪問した。
- 5日、ニャン外務大臣はダカール国際フォーラムのキックオフ会合を行った。フォーラムの総合テーマを「安定、統合、主権という課題に直面するアフリカ: 持続可能な解決策とは？」と決定。
- 14日及び15日、ソンコ首相はエチオピアにて開催された第39回AU総会に出席。
- 9日から14日にかけて、ニャン外務大臣はエジプト及びエチオピアを公式訪問し、AU総会及び閣僚会合に出席した。

(経済)

経済一般

- 9日、ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事とセネガルのディバ財務大臣がサウジアラビアで会談。
- 26日、中期債務管理及び2026年度国家財政計画の一環として2,000億FCFAの公募債を発行すると発表。

(社会)

- 4日、X社のスターリンクがセネガルに導入された。
- 9日、ダカール大学にて奨学金の支払い遅延に抗議する学生と治安部隊が対立し、学生1人が寮で重傷を負い死亡。10日、国防大臣、内務大臣、高等教育大臣、法務大臣が合同で記者会見を行った。

(文化・スポーツ)

- 24日、ソンコ首相はモロッコでサッカー・アフリカネイションズカップ決勝後にフリーガン行為を理由に拘束されているセネガル人サポーターについて、モロッコでの恩赦が認められない場合は両国間の合意に基づき受刑者移送も検討するとした。

カーボベルデ

(出典は Balai, Expresso das ilhas。)

- 3日、ネーヴェシュ大統領は、在外カーボベルデ人が自国の憲法をより理解できるよう、フランス語と英語で憲法を改正する意向を発表。
- 6日、農業環境省はサン・ニコラウ島でアフリカ豚コレラの流行が確認されたことを発表。
- 6日から8日、コレイア・エ・シルヴァ首相が訪米し、在米カーボベルデ人コミュニティと交流した。
- 7日、UNICEFが資金援助するプロジェクトの一環として、マイオ島の合計114世帯が飲料水の供給を受けた。
- 3日から7日、ド・リブラメント・デ・ブリト外務大臣はブラジルを訪問し6つの協力協定に署名。
- 9日、政府はICV(Infraestruturas de Cabo Verde, S.A.)に対し、ボア・ビスタ島のサル・レイ及びラビル

における上下水道プロジェクトの資金調達を目的とした7億7,200万エスクードの国家保証を付与することを承認。

- 10日及び11日、ベッテル・ルクセンブルク副首相兼外務・対外通商大臣がカーボベルデを訪問し「第6次協力計画2026-2030」を署名。
- 10日、政府はタクシーの安全システム導入を定めた新たな法令を承認。
- 11日、有権者登録委員会は3か月間で3,489人の新規有権者の登録を記録。
- 12日、国家選挙管理委員会は5月17日に予定されている議会選挙の選挙日程を承認、公表した。
- 13日、2026年1月のインフレ率は2.3%であり、月間変動率は-1.7%であることが明らかになった。
- 14日及び15日、ネーヴェシュ大統領及びド・リブラメント・デ・ブリト外務大臣はエチオピアで開催された第39回AU総会に出席。
- 14日、S&Pは財政及び対外面での進展を受け、カーボベルデの格付けをB+に引き上げ、前向きな見通しを示したと発表。
- 16日、2025年の輸出は2024年比18.2%増、輸入は5.0%増となったことが明らかになった。
- 25日、国際金融公社はカーボベルデのBCA(Banco Comercial do Atlântico)の買収を理由として、C orcisグループに1億米ドルの融資を行う提案を発表。

ガンビア

(出典は The Point、Seneweb。)

- 2日、サニャン内務大臣は、治安部隊に対し、改革とチームワークを受け入れ、国民への成果提供を強く求め、失敗は許されないと警告。
- 11日、ジャロウ副大統領はUNICEF代表とハイレベル会合を実施し、デジタル変革イニシアチブについて協議。
- 14日及び15日、ジャロウ副大統領、ニエ外務大臣、ジャロウ法務大臣はエチオピアで開催された第39回AU総会に出席。
- 18日、第61回独立記念日が祝われ、バロウ大統領が独立記念日に際する声明を発表した。同声明では、独立の意義を改めて強調するとともに、経済・社会発展に向けた取り組みの重要性について言及。
- 19日、スイス系NGO「INPACT」の調査により、ガンビア人がロシア軍戦闘員としてウクライナに派兵され、少なくとも26人が死亡したことが明らかになった。

ギニアビサウ

(出典はギニアビサウ外務省、Jeune Afrique、Radio Capital FM、Radio Bantaba、O Democrata、Balai、BBC。)

- 2日、12月6日に議会選挙及び大統領選挙が実施されることが発表された。
- 6日、暫定政府は、クーデター後の調停におけるECOWASの成果を称賛し、最高司令部が課された措置を順守すると保証。
- 6日、エンバロ元大統領とその支持者がギニアビサウに戻るができるよう、エンバロ元大統領国内

代表が軍最高司令部に安全確保を要請。

- 7日、武装迅速介入警察(PIR)によって人権団体「権利の家」が再び閉鎖され、同機関を訪問していたビアンキEU大使も追放された。トゥーレ・ギニア人権連盟 (LGDH) 会長も、同様に追放された。
- 13日、ペレイラ・ギニア・カーボベルデ独立アフリカ党 (PAIGC) 党首が、クーデター未遂事件に関連する手続きの一環として、証人として軍事検察庁の事情聴取を受けた。

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)